

ピアノ曲

『水 景』

日本旋法による

中西 清一 作曲

(作品9)

2003年2月3日

Music for Piano

“A Story Over the Water”

based on Japanese traditional scale

composed by

Nakanishi Seiichi

Op.9

February 3, 2003

ONGAKUKOBO

Kyoto, Japan

ピアノ曲『水景』製作メモ

2003年1月17日

I 「源」…ことのはじまり…3分20秒

II 「流」…水流，日本の川のイメージ…3分55秒

III 「溜」…水面，水を巡る生命，静かなる命の営み  
3分30秒

IV 「海」…行き着くところ，死の世界，滅亡，新たな生命の誕生するところ，再生，喜び，不安，葛藤，決意，決断  
3分5秒

(解説)

この作品は「水」を巡る物語です。各楽章のイメージは次のとおりです。

★ 第一楽章「源」

「源」は「みなもと。物事の発するもと」ですので，水源・源流のイメージです。

★ 第二楽章「流」

川の流れのイメージです。激しい流れもあれば緩やかな流れもあります。

★ 第三楽章「溜」

緩やかな流れ…流れが止まって見えることがあります。生命の営みを見ることができません。ひと時の休息も必要です。

★ 第四楽章「臨」

川は再び流れ始めます。いざ大海原へ。希望を持って。でも不安が横切ります。

★ 第五楽章「海」

海を見たとき，どんな印象を持つでしょう？希望や強さを感じるかも知れません。でも「海」は西洋の文学では「死」のイメージを持っています。しかし考えて見れば，海は生命が再生される場所です。仏教思想から言えば，死の世界はありません。なぜなら仏教の思想は，輪廻ですから。「地獄・極楽」のイメージは道教の影響です。科学的に考えてもそうですね。人間，死んで肉体が無くなっても，体を構成していた成分は，別の成分になって地球に残ります。そしてその成分は回りまわって，各自の体の中に吸収されます。こう考えると，争いや戦争なんて起こらないはずなのですが…。